

# カリキュラム・マネジメントに対応

書写で身につけた「書く力」を日常生活に活かせるよう、国語科をはじめ、他教科や学校生活で活用するヒントを満載しました。



国語教科書に掲載されている古文や詩・短歌を、なぞって書くことで、生徒の理解がぐっと深まります。

他教科にも役立つ内容や読書環境他、学校行事を彩る多様な作例を掲載しました。

## 「学校行事」

## 「書写」 書いて味わう

国語 季節のしおり 2 季節の言葉を、書いて味わおう。

**春** 行書  
春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ざは、すしあかりて、紫だらたる雲のほそくたなびきたる。

**夏** 行書  
夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

**秋** 行書  
秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。

**冬** 行書  
冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。

教科書 90・91ページ

## 「国語」 読んで味わう

枕草子 清少納言

「枕草子」は、平安朝代清少納言によって書かれた、日本を代表する随筆文学である。作者が宮廷生活をしていく中で感じたことや、季節の感興、人生観などを、独自の視点で感嘆や感懐を文章で表現している。冒頭部分の「春はあけぼの」が有名である。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ざは、すしあかりて、紫だらたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。

教科書 80・81ページ

## なぞり書き用教材 (例)

- ・竹取物語 (9 ページ)
- ・走れメロス (19 ページ)
- ・坊っちゃん (9 ページ)
- ・おくのほそ道 (22 ページ)
- ・扇の的 (19 ページ)
- ・季節のしおり 1～3 (64・65 ページ他)

## 「行書を活用しよう」

国語 学校生活 行書を活用しよう 読みやすく書くことが、行書のよさを生かして、日常生活でも使ってみよう。

本の手帳

文化祭 2021

立て看板

応援旗

メモ

ノート

名前

2年2組 夏野純

教科書 80・81ページ

## 他教科・学校行事 (例)

- ・学級目標 (50 ページ)
- ・本の帯 (80 ページ)
- ・ノート (80 ページ)
- ・応援旗 (81 ページ)
- ・聞き取りメモ (81 ページ)
- ・壁新聞 (82 ページ)
- ・冊子 (108 ページ)

## POINT 国書の連携

「枕草子」や「平家物語」など、生徒が暗唱できるくらい読み込む文章を、流れるような美しい行書で書けると嬉しいですね。「整った文字を書きたい」という生徒の願いを叶えるために、いつでも持っておきたい教科書です。



甲斐 利恵子 先生 (東京都港区立 赤坂中学校 教諭)